

第26番 金剛頂寺

●高知県室戸市元乙523
☎0887-23-0026
●宿坊/なし



第27番 神峯寺

●高知県安芸郡安田町唐浜2594
☎0887-38-5495
●宿坊/なし



沿線の見どころ



岡御殿

藩政時代末期の面影を残す豪商岡家の御殿で、藩主が東部巡視の際に本陣として使用したと伝えられている。昭和60年に県の有形文化財に指定された後、平成9年に修復復元され、現在は、駕籠や茶弁当など岡家に伝わる品々や当時の商人の暮らしがわかる資料等を展示した資料館として一般公開している。

☎ 高知県安芸郡田野町2147-1
☎ 0887-38-3385
🕒 9:00~16:30
🔥 火曜(祝日の場合は翌日)
👤 大人500円、中高生300円
(20名以上は割引あり)



境内の見どころ



一粒万倍の釜

大師堂の横にある赤さびた釜は、「一粒万倍の釜」と呼ばれ、弘法大師が三合三勺(約495g)の米を入れて炊いたところ、万倍にも増え、飢えた人々を救ったという伝説を持つ。その近くに生えていた幹がコブに覆われたツバキは「がん封じの椿」と呼ばれ、枯れた後も幹が祀られており、病気平癒を願う人々の参拝が絶えない。



境内の見どころ



霊宝殿

正倉院を思わせる校倉造りの霊宝殿には、多くの文化財が收藏されており、事前に連絡すれば見学することができる。收藏品の中でも、金銅旅壇具、朝鮮高麗時代の銅鐘、平安末期の木造阿弥陀如来像、真言密教伝法の師8人をモデルにした真言八祖像などは国の重要文化財に指定されている。



堂々たる風格が漂う本堂は昭和58年(1983)に改築された

第26番

龍頭山 金剛頂寺

りゅうずざん こうみょういん こんごうちようじ

かつての捕鯨の町を見守る寺

歴史・全体像

室戸岬から西に進んだところにある行当岬。その背後にある標高約100mの高台に建つ金剛頂寺は、室戸三山のひとつとして、通称「西寺」と呼ばれている。大同2年(807)、嵯峨天皇の勅願により弘法大師が開基した。その後、嵯峨天皇、淳和天皇の勅願所として栄え、現在の室戸市の大部分を寺領とするが、文明11年(1479)、火災のために本堂を消失する。しかし、すぐに再興し、文明18年(1486)に本堂が建立された際には、盛大に大曼荼羅供養が行われた。

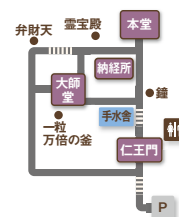
明治32年(1899)には再び火災に遭い、現在の堂宇はそれ以降に再建されたものである。

境内

約70mほどの石段を上って仁王門をくぐると、広い境内にたどり着く。左手には大師堂、右手には鐘楼があり、正面には堂々たる本堂がある。本堂の横には数々の文化財が收藏されている霊宝殿が佇む。また、境内には鯨の霊を供養する碑も建ち、かつて捕鯨で栄えた地の名残を感じさせる。トイレの横を抜けると、室戸岬や太平洋を一望できる展望スペースが広がる。大師堂が建っているのは、かつて弘法大師と天狗が問答したという場所。天狗を足摺岬に封印した大師は、自らの姿を刻み、この地に残した。そのため大師堂は足摺岬のほうを向いて建っている。



大師堂は「天狗問答」の伝説が残る場所



御詠歌/往生に望みをかくる極楽は月のかたむく西寺のそら
本尊/薬師如来
真言/おん ころころ せんだり まとうぎ そわか
宗派/真言宗豊山派
開基/弘法大師



日本遺産「四国遍路」~回遊型巡礼路と独自の巡礼文化~

弘法大師空海ゆかりの札所を巡る四国遍路は、阿波・土佐・伊予・讃岐の四国を全周する全長1400キロにも及ぶ我が国を代表する壮大な回遊型巡礼路であり、札所への巡礼が1200年を超えて継承され、今なお人々により継続的に行われている。四国の険しい山道や長い石段、のどかな田園地帯、波静かな海辺や最果ての岬を「お遍路さん」が行き交う風景は、四国路の風物詩となっている。キリスト教やイスラム教などに見られる「往復型」の聖地巡礼とは異なり、国籍や宗教・宗派を超えて誰もがお遍路さんとなり、地域住民の温かい「お接待」を受けながら、供養や修行のため、救いや癒しなどを求めて弘法大師の足跡を辿る四国遍路は、自分と向き合う「心の旅」であり、世界でも類を見ない巡礼文化である。

文化庁日本遺産魅力発信推進事業/発行:四国遍路日本遺産協議会/制作:(株)エス・ピー・シー

こころをつなげて四国はひとつ 四国遍路を世界遺産に

